

2021 年度 ものつくり大学埼玉県地域連絡協議会実施報告

1. 日時、実施会場・形式

2022 年 2 月 15 日(火) 13:30~15:00

ものつくり大学 本部棟 2 階 大会議室にて会場と Zoom 配信のハイブリッド形式

2. 出席団体数

17 団体 17 名

3. 議事

(1)20 周年記念動画放映

(2)IOT Vision Compass 2030 について

(3)教育改革の実践について「ものつくり大学における教学マネジメントの推進報告」

(4)研究成果の循環について「産官学の連携 -共同研究、情報発信、人材育成」

(5)地域連携の加速について「就職状況・インターンシップ報告」

「埼玉北エリアでの 10 者連携協定報告」

(6)運営組織の強化について「キャンパス整備計画『広場プロジェクト』」

「20 周年記念事業の報告」

(7)意見交換

4. 意見交換詳細

◎大学の評価は卒業生にあるとの事だが、卒業生との繋がりをどうやって作っていくのか。また、企業に対しても卒業生のことを発信すれば、企業に PR できるのではないかと。

→卒業生の中には、非常勤講師として本学で在籍している学生もでてきた。企業からは、1 期生が働き盛りの 40 歳に近づき、「現場力がある」と評価をいただいている。新卒の卒業生も、道具の名称を知っているのが現場に馴染むのが早く、離職率も低いとの調査結果がある。

→同窓会の活動はようやく軌道に乗り始めたところである。同窓会から奨学金の支援や、軽トラックの寄贈をいただいている。就職活動についても、卒業生の面接指導に来てもらっている。

→同窓会と広報地域交流係が協力して、卒業生の活躍を冊子にまとめているところである。

◎インターンシップ状況について、2020 年度は新型コロナウイルスの影響で実施できず、2021 年度に 2 学年実施したとのことだが、2021 年度の履修者数が例年の倍の人数になっていないようだが、履修できなかった学生がいるということか。また、学生はインターンシップ先をどのように選んでいるのか。

→インターンシップ開始直前に、企業、学生、保護者に最終的な意思確認を行い、中には新型コロナウイルスが落ち着いた時期を見てインターンシップに行きたいという学生もいた。また、インターンシップ先で感染者が出たため急きょ中止になったケースもある。

企業の受入れは 1 社で 5 名受け入れる企業もある。学生に希望を取った上で、担当教員と面談

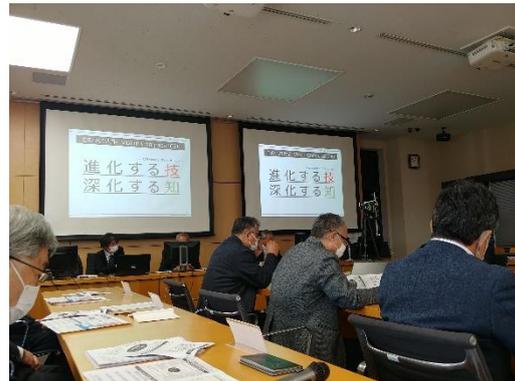
を行い、インターンシップ先を決定している。受入れのなかった企業に配慮しつつ、学生の希望に沿うようにインターンシップを実施している。

◎建設業は、担い手の確保が最重要課題である。県内企業の就職率とインターンシップの県内履修者率が乖離しているが、県内就職の促進などは行っているか。

→インターンシップでは、自宅から通えることも選択肢の1つになる。就職は、視野を広げた結果、他県に行ってしまう。県内企業への斡旋というのは実質的に難しい。企業研究交流会は、県内企業にも声をかけているが、会場で学生を県内企業に誘導しているとはなかなか言えない。



▲会場の様子



▲赤松学長によるビジョン説明

以上